

事業概要表（草の根パートナー型）

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	エチオピア
2. 事業名	在来種による植林と環境教育を通じた住民組織による里山復元事業
3. 事業の背景と必要性	エチオピアでは、国土の約40%を占めていたとされる高木林が、現在では約3%に減少している。統制が効かない畑地開発、放牧、薪炭採取などが大きな要因で、過去約50年間の変化が大きい。里山林の荒廃による土壌の流出、生活に不可欠な燃料と水源の枯渇、生物多様性の危機が顕著で、住民や地方行政も危機感を高めている。水源涵養、燃料供給源と生物多様性確保などの観点から、里山林の復活が地域の持続的自然資源保全に欠かせない。住民や農村組織への啓発と自然環境の復元が平行して行われる必要がある。
4. プロジェクト目標	ボセット山麓において在来種による植林活動と環境教育を通じた住民参加型の里山復元モデルを確立する。
5. 対象地域	エチオピア国オロミア州東ショア県に位置するボセット山麓
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	ボセット山麓の地域住民・農業者・行政関係者、NGO、大学関係者など
7. 期待されるアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池の造成により水源が確保される。 ・植林用苗木の生産体制が整備される。 ・在来種による植林モデルが確立される。 ・里山林の保全と利用を担う住民組織が確率する。 ・モデル校で環境教育が実施される。 <p><活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック・シートを利用した小規模ため池を造成する。 ・苗畑を造成し、在来樹種の苗木生産を行う。 ・住民による土壌保全工事林を実施する。 ・里山林の保全と利用のための体制とルールを整備し副産物による現金収入向上に取り組む。 ・環境教育プログラムを作成し、モデル校で実施する。
8. 実施期間	2015年9月～2021年10月（6年2ヶ月）
9. 事業費概算額	49,960千円
10. 事業の実施体制	<p>日本側：世界の砂漠を緑で包む会 プロジェクト・マネージャー 1名 現地調整員 1名 国内調整員 1名 短期専門家（住民組織化、環境教育、経済開発）3名</p> <p>相手側：オロミア州東ショア県農業・農村開発部 プロジェクト責任者 1名</p>
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 世界の砂漠を緑で包む会
2. 活動内容	10年以上にわたり、中国内モンゴル自治区阿拉善盟において、砂漠化防止のための緑化活動を展開。この経験をアフリカへ移転すべく、エチオピアで現地調査を実施。国内では、国際交流、石川県森林公園の整備をボランティアで実施。